

Title	モンゴル語におけるスラングの発生とその使用状況について
Author(s)	オチルバト, サンボードルジ
Citation	大阪外国語大学論集. 29 p.151-p.163
Issue Date	2003-09-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79923
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

モンゴル語におけるスラングの発生と その使用状況について

オチルバト・サンボードルジ

About the Origin and Use of Slang Expressions in Modern Mongolian

Ochirbat Sambuudorj

The author treats the following basic problems on slang in modern Mongolian.

1. He explains the situation in which slang expressions in modern Mongolian appeared and developed. Compared with other languages, slang expressions in modern Mongolian were rather late to come into vast use in the Mongolian society, and the delay should be considered with relation to the nomadic culture, custom, way of life, and religion of the Mongolian society. The developmental stages of Mongolian slang expressions, which appeared under the historical situation of the social system of the 20th century Mongolia, can be divided into the three phases: 1) 1930-1950, 2) 1950-1990, 3) 1990 and later.

2. He explains the role and characteristics of slang used by specific strata of Mongolian society. Two sorts of such Mongolian social slang expressions should be distinguished, i.e. slang of those who belong to a group under constraint (thieves, criminals, soldiers) and slang of those who belong to a group with no constraint (children, youth, students, pupils, etc.).

0. はじめに

いかなる言語の研究対象でも、社会の発展と変革を最も強く反映するのは語彙であると見なしてよいであろう。モンゴル社会において1990年から始まった改革によって生じたモンゴル語の語彙の変化、とりわけスラングの使用状況が、そのことを明示している。そこで、本稿ではモンゴル語のスラングの発生と使用状況について、一定の基準にしたがい論じること努めた。ただし、モンゴル語研究における、スラングに関する基礎的問題、発生様式、機能（社会的、心理的、文体論など）、意味、および「俗語 сленг」「職業語 жаргон」「隠語 аргы」などの概念については、別稿に論じたのでここでは述べない。

モンゴル語の体系においてスラングとはいかなるものであるかと言えば、「俗語」という概念によって代表され、社会における種々の集団の構成員が使用する表現であり、洗練された文学言語の規範からはずれ、短期間に变化する語彙の一部であると理解することが

できる。モンゴル人がスラングを使用する目的は、普通の発話の語感や形式や規範を変化させて、発話を軽快にしたり、自分の意図を隠したり、野卑あるいは侮蔑的な語感を加えることなどである。スラングは、そのような目的の場合に生まれ、その機能が失われれば使用されなくなることが一般的に観察される。また一方で、スラングの使用はその人の人間関係と言葉についての教養と密接に関係するため、スラングを野卑な表現や卑語と区別することはある面では困難である。スラングは、原則として、文学言語の規範と対立しつつも言語体系とは対立しない。つまり、スラングは、言語伝達の機能を果たす役割を担っているのであるから、一面では、語彙を豊かにして言葉遊びを生み出すなどの結果をもたらし、言語の新しい局面を提示して社会心理を表出するのである。

1. モンゴル語におけるスラングの発生について

1.1. モンゴル語におけるスラング発生の歴史的条件と原因

モンゴル語においてスラングが系統的に発生し発展するための条件は、遊牧文化、広大な国土、習慣、信仰などのために整わない状況が続いた。ところが、20世紀になって、モンゴル社会では多くの都市が新しく建設され、目的や職業によってまとまった人間集団が生まれた結果、スラングを使用する条件が整い、1950-60年代に、一貫した社会現象および言語現象が見られ、社会方言の形成が見られるようになった。そして、1970年代には、スラングはモンゴル文学において一定の地位を占めるようになった。恰好の例として、モンゴルの作家J. バラムサイの『現代金魚物語』がある（Барамсай, 1976）。

この作品は、ある文学の授業中に、ある学生がロシアの大作作家A.S. プーシキンの『金魚物語』のモンゴル語訳について説明しようとして、作品の定型的な言い回しや文学言語の規範にしたがって話すことができず、自分の知っている話し言葉とスラングによって先生に何とか伝えている様子を優劣両面から描写した風刺的な作品となっていて、当時非常に短期間に大衆に広まった。とりわけ都市部の若年層には、この作品をまねてスラングで冗談を言う「病気」が蔓延した。ところが、大衆を巻き込むうちに若者たちの関心は薄らぎ、スラングを使って話すのを嫌うようになった。言い換えれば、この作品はスラングによる「病人」を「治療」するワクチンになりえたのである。その一方で、当時の評論家は、この作品は言葉の純粋さを汚すものだときっぱり批判した。

1990年代には、モンゴル語にスラングの新しい波が起り、とりわけ、出版物に深く浸透して、話し言葉にスラングの新しい形式が多用されるようになった。比喩的に言えば、言葉が自由を手に入れ社会主義時代の思想的呪縛から抜け出したのであるが、この自由は一面では、言語の規範からはずれたことによって、一種の社会的病理となったのである。このようなスラングは、現代モンゴル語の書き言葉と話し言葉において一貫した現象となっていった。

1.2. モンゴル語スラングの研究状況

西洋諸国において18世紀からスラングの研究と辞典の編纂が行われてきたことは、スラングがこれらの国々で言語単位として発生し存在してきたことと関係がある。一方で、モンゴル語研究では、スラング研究に今日まで注意を払わずにきた。このことは、次のいくつかの原因によって説明される。

第一に、1930年代半ば、旧ソビエト連邦において全体主義が社会のあらゆる分野を支配し、人間世界をどう理解するのかを強制的に左右し、新しい形態の社会、政治、習慣がどうあるべきかを提示したことによって、社会のあらゆる分野、その中の言語学にまで影響し、語彙の規範からはずれた言葉の存在を否定し、そのような語句を時代遅れの社会現象であるかのように解釈して、スラングに関する出版物、学術論文が発禁となったことである。また、スラングに関心をもって研究する人間が反政府的と見なされもした。このような状況は、ソ連の影響下で発展してきた社会主義諸国にも同様に影響を及ぼした。たとえば、ソ連政府が樹立された1917年から30年代半ばまで、ロシアではスラング研究はかなり盛んに行われた。これは書き言葉以外の言語現象に注目した社会状況と関係がある。この分野で、当時のロシア言語学者В.А. ラリン (Ларин, 1928, 1931, 1977)、Ye.D. ポリワノフ (Поливанов, 1928, 1931, 1968)、D.S. リハチェフ (Лихачев, 1935, 1964)、V.M. ジルムンスキー (Жирмунский, 1936, 1964)、L.P. ヤクビンスキー (Якубинский, 1930, 1931a, 1931b, 1932) らが多くの著作を著した。当時、階級言語、言語と革命、民族語の形成におけるスラングの機能、移行期の言語などの問題が議論されていた (Елистратов, 1995:9-10)。これらすべては、スラングを階級的存在、過去の社会現象であるかのように見なし、このようなプロレタリア言語学者らの見解が研究の進歩に障害となって、停滞状況に陥った。社会主義諸国においては、このような状況でスラング研究が停滞していたが、ペレストロイカの成果によって1985年以降再び発展し始めた。

第二に、スラングは1950-60年代まではモンゴル語の語彙において独立した単位として発展することができず、モンゴル語研究の発展状況、つまりスラング研究の伝統がまだ生まれていなかったということがある。そのため、モンゴル語スラングの研究を始めた大部分の研究者は、研究成果に関した概要を述べるにとどまり、その社会的機能および言語機能にあまり注目しないまま、上に述べたように多くの場合、文学言語の規範にとって障害にすぎないというような、限定的解釈をするにとどまったのである。

モンゴル語のスラングについて初めて言及したのはJ. トウムルツェレンであり、「Этгээд аялгууны үг (集団方言)」という名称を使った (Төмөрцэрэн, 1974:111-113)。同氏は、「革命後、このような上層階級のスラングは聞かれなくなったが、ある少数集団の中では、他人に隠すために言葉の意味を変化させたり、独自の語句を用いる行動が盗人や囚人に散見される」 (Төмөрцэрэн, 1974:112-113) などのように説明している。その後、D. オトゴンズレン、Ts. スフバートル、E. プレブジャブらがモンゴル語のスラングの文体論的機能について述べた (Отгонсүрэн, 1975, 1998; Баярсүрэн,

1993; Сүхбаатар, 1998; Э.Пүрэвжав, 1996)。また、S.スヘー、D.バダムドルジらは、モンゴル語のスラングを意味論的にどのように分類すべきか探求した（Сүхээ, 1996; Бадамдорж, 1997）。L.エルデンソブド、O.サンボドルジらは、モンゴル語のスラング研究の基礎、機能、発生様式、意味論に関する論文および単語リスト付の著作をはじめて出版した（Эрдэнэсүвд, 2000, 2001; Самбуудорж, 2001, 2002）。

1.3. スラングは社会の歴史、文化、思潮の表現である

言語は、社会の歴史、文化、思潮を表出するものであり、伝達のための手段という点において、自らの体系内で緩慢ではあるが変化する。したがって、スラングも言語のひとつの単位にはかならないという点においては、上に述べたように、明確な社会的および言語的原因によって、発生すると同時に変化すると言うことができる。

他国と比較すると、スラングは、モンゴル社会において、遅れて発生したと見るべきであり、このことは上に述べたように、モンゴルの遊牧文化、広大な土地、習慣、宗教、職業の階層を構成する大都市がたくさん生まれなかったなどの事情と関係があるだけでなく、他国と比べると、モンゴル人が母語で話す時に習慣的に野卑な言葉を避けて知的に話すよう努めること、また、言葉の力と人間の関係を重んじることとも関係がある。どんな乱暴者でもスラング使用の規範には縛られるのである。これは、野卑な言葉を使うことが一種の罪であると考えからだけでなく、言霊を信じる心、文化的伝統と関係があると言うことができる。モンゴル人の「将来の幸運をとえより、縁起のよい言葉をとえよりの方が良い」という哲学が、ここにはっきりと表れているのである。これは、よい言葉を口にすればよいことが、悪い言葉を口にすれば悪いことが起こる、という象徴的な意味をもって理解されているのである。

モンゴルには、1921年以前において、托鉢僧、義賊、獵師などの集団が存在したが、彼らはその目的によるスラングを形成できなかったと言ってよい。寺社、僧院の学校にスラングが存在した可能性はあるが、宗教戒律に支配されあまり発展できなかった。常設軍の兵士の間にスラングが存在した可能性はある。封建階級や貧富の差によってもスラングが発生した可能性があるが、大部分は公的な言い回しや尊敬語を生んだだけである。昔から伝わるこれらのスラングの確たる記録は私たちには残されていないが、伝統的に使用されてきた多くのイディオムがスラングから生まれていると見られる。処罰したり家畜を呪ったりする意味の伝統的なイディオムは、おおむねスラングの意味と文体の語感をもっていると言える。

一般にイディオムとスラングの境界を特定するのは困難であり、このことが多くのスラングがイディオムに変化しうることを証明している。これを考慮するならば、モンゴル語で伝統的に使用されてきた多くのイディオムはスラングから発生したと見るべきである。1960年代に生まれた以下のようなスラングは、現在ほとんどイディオム化した機能を果たしていると言える。

たとえば、

цагаан гартан (知的労働者) <ЦАГААН (白色)、ГАРТАН (手をもつ者)。

гол гаргах (だます) <ГОЛ (河川)、ГАРГАХ (渡す)。モンゴルの『洪水』という映画の主人公のロシアの古老ミハイルが、ロシア白軍に対して、「わしの船で貴軍を川の向こうに渡らせてやる」と言って欺いたという逸話からこのスラングが生まれた。

この二つのスラングは、嘲笑する意味の言葉である。たとえば、「ドルジは一度もいなかの仕事をしたことがない人で、事務仕事のことしか知らない цагаан гартан (知的労働者) だ」とか、「おまえも人を гол гаргах (だます) 時にはひどいことをするやつだな」という具合である。

шаврын хаалт болох (邪魔になる) <ШАВАР+ЫН (泥)、ХААЛТ (遮蔽物)、БОЛОХ (なる)、Шаврын хаалт (泥除け)。比喩的に生まれたスラング。たとえば、「私たちはバトスフのいないところでこれについて話し合おうとしていたが、常にいっしょにいて本当に шаврын хаалт болсон (邪魔になった) よ」。

1921年の革命はモンゴル語の語彙に大きな変化をもたらし、この時から新しい形の都市、新しい社会階層がたくさん生まれることになった。書き言葉と話し言葉において多くの新しい言葉ができるのと同時に、新しい階層が語彙の規範からはずれた言葉を使うようになった。ロシア人専門家の影響およびロシアで教育を受け始めた文化人や軍人らは、話す時にロシア語を好んで混ぜるようになった。このことは、外来語起源のスラングが発生するひとつの原因となった。

たとえば、軍人らが使う

майор (少将) <ロシア語 майо́р (МАЙОР) から。

医療関係者の

доктор (医師) <ロシア語 до́ктор (ДОКТОР) (1. 博士 2. 医師)。

Сестра (看護婦) <ロシア語 сестра́ (СЕСТРА) (1. 妹 2. 看護婦)。

このような現象は、当時、ある概念に対して母語にある術語を当てたり、新しく記述する適当な術語を見つけられなかったことと関係があるようである。1930年代のモンゴルの政治的肅正時代に囚人の間で使われた、

бууны нохой (囚人のふりをして情報収集する者) <БУУ+НЫ (鉄砲)、НОХОЙ (犬)。

ногоон малгайт (内務省職員) <НОГООН (緑色)、МАЛГАЙТ (帽子をかぶる者)。

内務省職員は緑色の帽子をかぶっていたことからこの表現が生まれ、侮蔑と恐怖の語感で使用される。

これらのスラングは、当時の社会を描写していると言うことができる。20世紀1950-60年代になって、モンゴルに生まれた職業と小集団、都市部の若年層の情緒を表す多くのスラングが生まれ始めた。

たとえば、青少年の使う

атамаан (自分たちのグループ・リーダー) <ロシア語 атама́н (АТАМАН) (ロシアの地方支配者)。

овгор (他人を見下す人) <ОВГОР (突き出て上に出たもの)。

хулиган（ならず者）<ロシア語 хулига'н (ХУЛИГАН)。

дош（自分のいる場所）<ДОШ（タルバガが集団で冬眠するために準備した土盛りのある大きな穴）。たとえば、「私たちの дош（ところの）子供たち」などのように使う。

学生たちの

цонхлох（授業に先生が来ず授業がなくなること）<ЦОНХ+Л+Х（窓）。

эх орны алтан гурав（成績評価の「ふつう」）<ЭХ ОРОН（故郷）、АЛТАН（金）、ГУРАВ（５段階評価の真ん中）。

などの語句がこの時生まれた。また、この時、盗人の集団と30年代から建設された刑務所で囚人たちが盛んに使う多くのスラングを生んだ。現代モンゴル語に生まれているスラング、たとえば、

хонгилын үзүүрт гэрэл харагдах（社会・経済の状態が良くなる）<ХОНГИЛ+ЫН（長い穴）、ҮЗҮҮРТ（果てに）、ГЭРЭЛ（光）、ХАРАГДАХ（見える）。

хор найруулах（陰謀を企てる）<ХОР（毒）、НАЙРУУЛАХ（混ぜる）。

уснаас хуурай гарах（政治家が社会資本を流用したにもかかわらず無罪放免となる）<УСАН+ААС（水）、ХУУРАЙ（乾いた）、ГАРАХ（出る）。

などの表現は、現代モンゴルの具体的な社会状況を反映した語句である。これらのことから、20世紀のモンゴルの社会システムがモンゴル語のスラングを系統的に発生させる条件を満たしたとみることができる。そして、その発展の第1期を1930-50年、第2期を1950-90年、第3期を1990年以降と区分することが可能で、最盛期を1930、70、90年代の各10年間と見ることができる。

2. モンゴル語スラングの使用状況

2.1. 社会現象および言語現象としてのモンゴル語スラング

モンゴル語においてスラングがこのように社会現象や言語現象に変化したことで、その使用状況を研究する必要がすでに生じているのである。話者の思潮を表出し、話者の年齢や性別、職業、社会階層の特徴を反映して発話に使用することを「スラングの慣用」と定義することができる。スラングの慣用の特徴は、その階層の構成員にあたかも言語の規範のように運用されるため、洗練された文学言語の決まった言い回しと共存しながら別の語感を持ち、たいていは当人たちにとって普通の言い回しのように使われることである。その一方で、スラングを使用しない者にとっては、そのスラングに違和感を感じるだけでなく、耳ざわりで、ある場合には「制約的集団」のスラングはほとんど理解できないのである。このことは、スラングの使用が洗練された文学言語の語彙の規範をはずれて、語彙の消極的な部門になることを示している。

モンゴル語のスラングが大衆化する状況は均一でなく、ある語句は大衆に広まりさかんに使用される一方で、ある語句は非常に限られた範囲で使用されるのである。また、あるスラングは長年にわたり盛んに使われ文学言語にも取り込まれるが、あるものは短期間の

うちにあまり使われなくなってしまう。

たとえば、モンゴル語の гол гаргах（だます）＜（意味は上記参照）、буу халах（無駄話をする）＜БУУ（銃）、ХАЛАХ（熱くなる）。зэсрэх（避ける）＜（新しい動詞）、дэлгүүр（ズボンのファスナー）＜ДЭЛГҮҮР（商店）などは長年にわたって広く使用されているスラングである。

Байшинт（100トゥグルク）＜БАЙШИН+Т（建物）。当時モンゴルで最も高額であった100トゥグルク紙幣にモンゴル政府庁舎の絵が印刷されていたためこの表現が生まれた。

БНМАУ（Бүгдээрээ нийлж манайд архи ууя（みんなで集まってうちで酒を飲もう）＜Бүгд Найрамдах Монгол Ард Улс（モンゴル人民共和国）という語の省略形から生まれた。

これらのスラングは、当時の社会を反映して生まれたが、現在は使用されなくなった。その原因は、100トゥグルクが現在1ムングの価値さえもなくなったこと、「モンゴル人民共和国」と呼ばれた国が現在は「モンゴル国」と名称を変えたことと関係している。つまり、モンゴル社会のある階層はスラングが非常に豊かであるが、あまり豊かでない階層も存在するのである。

このことは、その階層の特徴と構成員数、階層が生まれたばかりであることなどに関係があるであろう。モンゴルの若者、学生、犯罪者、軍人などはスラングが豊かな階層である。これは、構成員の年齢の特徴、教養、教育、社会からの隔離度などと関係し、このような状況は多くの言語で普遍的な特徴として観察される。スラングを使用する階層の数、スラングの数などによって、モンゴル語のスラングを「不自由集団のスラング」「自由集団のスラング」の二つに大別することができる。

2.2. 不自由集団のモンゴル語スラング

「不自由集団のスラング」は、社会的地位、自由度が制限され、社会から隔離されて規制下にある集団が使用しており、その意味や機能が多くの大衆に明確でないスラングを「不自由集団のスラング」と呼ぶことができる。ある研究者が「限定範囲および犯罪グループのスラング」と定義したスラングをこれに含めて理解してもよい。モンゴル語の「不自由集団のスラング」は、それを使用している階層、通用範囲、その機能、目的により、「盗人」「犯罪者」「軍人」のスラングに分類できる。

2.2.1. 盗人のスラング

モンゴルにおいて、窃盗が蔓延し、集団窃盗が行われるようになって、盗人たちのスラングが盛んに生まれることになったことは疑いが無い。1960年代になって、モンゴル社会の都市生活において、盗人らが組織的に徒党を組んで窃盗をするようになって、自分たちの行動や意図を社会に隠すためにスラングを使うようになった。

たとえば、

сансар（胸ポケット）<САНСАР（原意は宇宙）、зураа（ズボンのポケット）<ЗУРАА（長く細い線）、лаг（お金をたくさん持っている人）<ЛАГ（凄まじい、非常に）、зэсрүүлэх（次に手渡す）<ЗЭСРЭХ から生まれた新語、дохуу（金、金製品）<ДОХУУ（金工の道具）、хавчих（スリを働く）<ХАВЧИХ（挟む）、дэлбэлэх（人家のものを集団で盗む）<ДЭЛБЭЛЭХ（爆破する）などである。

盗人らのこのようなスラングは、その人がどこに金品をしまっているか、また金品をもっているかどうか、についての言葉であることは明らかである。現在、これらの符丁が盗人たちの表現であることを知る人が多くなったために、盗人たちは口笛や舌打ち、拍手、目の合図などを補助的に使うようになった。

2.2.2. 犯罪者のスラング

社会から自由を剥奪されて刑を受けている者たちの中で伝達の目的で使われているスラングを「犯罪者または服役者のスラング」と呼ぶことができる。犯罪者は特別な法律や監視下にあるか誰かの抑圧下にあるため、言葉の自由が制限されている。そのため、彼らが考えを伝達したり、異議をとなえたりするために何らかの言葉を作り出したり、選択する必要が生じる。また、他方、犯罪者はいつも本当の気持ちや意図を他人に対して隠したが、り、服役している生活環境、文化教育のレベルによってスラングを作って使う。犯罪者のスラングがたいいてい美的および倫理的の規範からはずれていることは、このことと関係がある。

たとえば、

амьсгаа（弱い囚人）<АМИСГАА（呼吸、呼吸する程度のヤツ）という軽蔑した語感のある言葉。

амбаардах（尻を蹴り上げる）<ロシア語: амба'р（АМБАР+Д+Х）（入り口付近の小さなスペース）。蹴って追い払う、自分のグループに入れない、見下すという意味からできた語。

пойлдох（リンチする）<ПОЙЛДОХ（新しい動詞）。

үхэр алах（額を何かで殴って意識を朦朧とさせる）<ҮХЭР（牛）、АЛАХ（殺す）。モンゴル人は時に牛の額を何かで打って倒した後で屠殺することがあることから生まれた語。

адислах（殴る）<АДИС+Л+Х（僧侶が参拝者の額に自分の手と経典でなでて、幸福を祈る儀式）。

сэнжигдэх（ナイフで刺す）<СЭНЖИГ+Д+Х（モノのひも。人をナイフで刺して、体からひものようにものが垂れているという感じ）。

зэсрэх（逃げる）<ЗЭСРЭХ（新しい動詞）などである。

2.2.3. 兵隊のスラング

軍事用語と併行して、兵隊の気持ちや考えを表現する目的で使われるスラングを「兵隊

のスラング」と呼ぶことができる。モンゴルの兵隊に広く普及したスラングの大部分は新旧軍隊の兵役にとられた年代の違い、兵隊同士の関係によって生まれる規律と関係のある語句である。「兵隊のスラング」は法律や倫理的な規範からはずれている。

たとえば、

нохой шээлгэх（兵隊を四つん這いにさせ、片方の足を上げさせ、両手と片足で犬が小便するように長く立たせる）<НОХОЙ（犬）、ШЭЭЛГЭХ（小便させる）。

янаглах（殴らずに軍規を長く読ませたり、床掃除させたりして親愛の情があるように処罰する）<ЯНАГ+Л+Х（親愛）。

年代差や部隊の特徴を反映した例は、гоожуур（新兵）<ГООЖУУР（水などが流れる器）。新兵が凍えたり、質の悪い冷めた食事をとると、たいてい腹をこわし下痢をするのを比喩的につくった語。

тосгуур（入隊後、一定期間を過ぎた新兵）<ТОСГУУР（「食事に慣れた」という意味で生まれた）。

асман（2年目の兵士）<АСМАН（去勢していない家畜）。

хал цэрэг（兵役期間が終わろうとしている兵士）<ХАЛ（忍耐強い）、ЦЭРЭГ（陸軍下級兵士）。

онжав（初年兵）<ОН（年）、ЖАВ（人名に付く語尾）。兵器、物資、概念などを反映した例、царцаа ногоон（ヘリコプター）<ЦАРЦАА（バッタ）、НОГООН（緑色）、элээ（ロシアのАН-2、緑色の小型飛行機）<ЭЛЭЭ（トビ）、дамбаал（兵士の冬ズボン）<ДАМБААЛ（意味不明）。

чапаев（兵士の白いシャツ）<ЧАПАЕВ（襟なしの白シャツを着ていたロシア内戦の英雄の名前から生まれた）など。

これらの例を見ると、兵隊のスラングはロシアやその他の軍隊スラングとは異なり、モンゴルの生活、モンゴル独自の習慣と密接な関係があると言うことができる。

2.3. 自由集団のスラング

社会的地位や自由の制限を受けない、自分を社会から切り離す必要のない階層の使うスラングを「自由集団のスラング」と呼ぶことができる。「自由集団のスラング」は、それを使用している階層、使用範囲などによって、青少年、学生、他グループに分類できる。

2.3.1. 若者のスラング

その理由は、モンゴル語のスラングを使っている自由な階層では青少年と学生のスラングがほかの階層より語彙数が比較的多く、さかんに使われ大衆にもかなり普及しているからである。いかなる言語においても若年層のスラングが大きな比率を占めていると言うことができる。これは、若者の軽快さや派手さ、十分な教養を身につけていないなどに関係がある。モンゴルの若者のスラングは、その年齢や情緒的な特徴を鋭く表出している。

たとえば、

сунадаг улаан (チェコ製のバス) <СУНА+ДАГ (伸びる)、УЛААН (赤色)。このバスは車両が長く赤色。

урт шар (ハンガリー製のバス) <УРТ (長い)、ШАР (黄色)。

өндөр довжоо (1990年代から日本でモンゴル向けに製造された公共バス) <ӨНДӨР (高い)、ДОВЖОО (乗降するおどり場)。このバスの乗降口が地面から高い位置にあるためこのように名付けられた。

хурган дарга (低い役職) <ХУРГА+Н (子羊)、ДАРГА (ボス)。хусах (1.食事をさっと平らげる。2.泥棒する) <ХУСАХ (外面をこすってきれいにする)。

モンゴルでは最近酒を飲むことが多くなり、これに関連するスラングが若者の間で非常に多くなった。

たとえば、

программдах (酒を飲む) <ロシア語 ПРОГРАММА (プログラム。進行、計画を作成する)。

савах (酒を飲む) <САВАХ (つまずいて転ぶ)、酒をたくさん飲んだ人の転ぶ様子から生まれた表現。

халуурах (酒を飲む) <ХАЛУУН+Р+Х (熱を帯びる) などがある。

2.3.2. 学生のスラング

学生のスラングは広く使われるが大学生と生徒の違いもあり、これは彼らの年齢と学校の特徴と関係がある。

たとえば、

гавал (優秀な学生) <ГАВАЛ (頭蓋骨の上部)。

эх орны алтан гурав (ふつうの評価) <ЭХ ОРОН +Ы (故郷)、АЛТАН (金)、Г УРАВ (5段階評価の真ん中)。

будaa идэх (授業や試験時に他の学生の顔を写す) <БУДАА (穀物)、ИДЭХ (食べる)、などのスラングは、学生、生徒のどちらもよく使うが、生徒の間で使われる мээ, мээкээ (バカ) <МЭДРЭЛ (神経)、мэдрэл という語を皮肉っぽく省略した形から生まれた) というスラングは、大学生にはそれほど使われない。

一方、大学生らが使う цонхлох (二つの授業に挟まれた授業に出席しない) <ЦОНХ +Л+Х (窓) というスラングは、生徒たちによってほとんど使われない。このように、大学生のスラングはその使用状況によって「学生全体」「一つの大学」「専門」の各スラングというように分類できる。

2.3.3. その他のグループのスラング

その他のグループのスラングは上述したスラングより数も少ないので、一つのグループにまとめることが可能である。運転手、役者、医者、パイロット、鉄道職員、商人、遊牧民、僧侶、政治家、獵師など具体的なグループに分類できる。たとえば、

1) 運転手のスラング: сарампай (古くてダメな車) <Сарампай (穴のあいた古いもの)。шааригдах (エンジンを止めて空ギヤにして、下り坂を走らせる) <ロシア語 шарик (ШААРИГ+Д+Х) (ベアリング)。

2) パイロットのスラング: ямаа харайх (着陸位置の計算を間違う) <ЯМАА (ヤギ)、ХАРАЙХ (跳ねる)。өвс идүүлэх (風向きに逆らって着陸する) <ӨВС (草)、ИДҮҮЛЭХ (食べさせる)。これらの表現は、モンゴル国内線の小型飛行機のパイロットらがよく使用する。

3) 鉄道職員のスラング: отмен (失職する) <ロシア語 ОТМЕ' НА (解雇する)。

4) 医師のスラング: истор (カルテ) <ロシア語 ИСТО' РИЯ (歴史、事件)。Обход (朝の回診) <ロシア語 ОБХО' Д (巡回する)。

5) 商人のスラング: гахай (大きなバッグの荷物) <ГАХАЙ (豚)、гахай зөөх (大きな荷物を担いで国境を越えて商売する) <ГАХАЙ (豚)、ЗӨӨХ (運ぶ、持ち上げる)。гахайчин (大きな荷物を運んでいる商売人) <ГАХАЙЧИН (養豚業者)。дарах (商品をたくさん買って安く購入する) <ДАРАХ (押す)。ногоон гэрлээр гарах (国境を関税や税金を支払わずに越える) <НОГООН (緑色)、ГЭРЭЛ (光)。тулах (物々交換する) <ТУЛАХ (モノをモノで支える)。ногоон (米ドル) <НОГООН (緑色)。

6) 政治のスラング: улс төрийн банзал (政治的な誹謗中傷) <УЛС ТӨР+ИЙН (政治)、БАНЗАЛ (売春婦、スカート)。гал унтраах (国民の要求やデモを姑息な方法で一時的に押さえる) <ГАЛ (火)、УНТРААХ (消す)。

7) 猟師のスラング: ганган улаан (キツネ) <ГАНГАН (美しい)、УЛААН (赤色)。хүрэн аав (クマ) <ХҮРЭН (こげ茶色)、ААВ (お父さん)。хурдан борлог (ガゼル) <ХУРДАН (速い)、БОР+ЛОГ (白馬)。

8) 牧民のスラング: гувруу (ラクダ) <ГУВРУУ (ラクダの鼻の軟骨が腫れて外に出てくる病気)。хорхироо (ヒツジ) <ХОРХИРОО (ヒツジがかかる伝染病) など。

これらの状況を観察するに、モンゴル語のスラングは、イディオムの伝統や牧畜業と深い関係のある野卑な罵倒語にその発生が関係していると考えれば歴史的に昔の伝統とつながっているということもできるが、実質的には、モンゴル社会の発展の特徴と段階に沿って20世紀にその体系全体が形成され、20世紀の三つの最盛期を経て発展したものであり、その結果、その使用状況から明確なグループに分類されるに至ったのである。

参考文献

1. (Бадамдорж, 1997) -Бадамдорж Д. Этгээд үг –“Орчин цагийн монгол хэлний утга судлалын үндэс”, Уб., 1997, х. 202-203.

2. (Барамсай, 1976) -Барамсай Ж. Орчин үеийн алтан загасны үлгэр. –“Цог”, 1976. №6, х. 79-80.

3. (Баярсүрэн, 1993,) -Баярсүрэн Ц., Сүхбаатар Ц., Отгонсүрэн Д. Этгээд үг хэллэг. — “Монгол хэлний найруулгын төрөл”, Улаанбаатар., 1993, х. 119-121
4. (Елистратов, 1995) -Елистратов В. С., 1995, Арго и культура. М., Изд-во Моск. ун-та. 1995. -231 с.
5. (Жирмунский, 1936) -Жирмунский В. М., Национальный язык и социальные диалекты. Л., 1936. — 297 с.
6. (Жирмунский, 1964) -Жирмунский В. М., Проблемы социальной диалектологии. —“Изв. АН СССР. Сер. лит. и яз.”, 1964. Т. 23. Вып. 2. стр. 99-112.
7. (Ларин, 1928) Ларин Б.А., О лингвистическом изучении города. —“Русская речь”, Л., 1928. Вып. 3. стр. 61-74.
8. (Ларин, 1931) -Ларин Б. А., Западно-европейские элементы воровского арго. —“Язык и литература”, Л., 1931. Т. 7, стр. 113-130.
9. (Ларин, 1977) -Ларин Б. А., История русского языка и общее языкознание: Избр. работы. М., 1977. -224 с.
10. (Лихачев, 1964) -Лихачев Д.С., Арготические слова в профессиональной речи. В кн.: —“Развитие грамматики и лексики современного русского языка”, М., 1964. стр. 311-359.
11. (Лихачев, 1935) -Лихачев Д.С., Черты первобытного примитивизма воровской речи. —“Язык и мышление” М-Л., 1935. Т. 3-4, стр. 47-100.
12. (Отгонсүрэн, 1975) -Отгонсүрэн Д., Этгээд үг хэллэгийг найруулгад хязгаа рлахын учир. —“Монгол хэлний найруулгазүй”, Уб., 1975, х. 123-125.
13. (Отгонсүрэн, 1997) -Отгонсүрэн Д., - Монгол хэлний үгийн сангийн найр уулгазүй. Уб., 1997, х. 152-154.
14. (Поливанов, 1931) -Поливанов Е.Д., За марксистское языкознание: Сб. по пул. лингвист. ст. М., 1931. -181,2 с.
15. (Поливанов, 1928) -Поливанов Е.Д., Задачи социальной диалектологии русского языка. —“Родной язык и литература в трудовой школе”, 1928. №2, стр. 39-49.
16. (Поливанов, 1968) -Поливанов Е.Д., Статьи по общему языкознанию: Избр. работы. М., 1968. — 376 с.
17. (Пүрэвжав, 1996) -Пүрэвжав Э., Монгол хэлний этгээд үг хэллэг. — “Монгол хэлний хэм хэмжээ”, Уб., 1996, х. 51-55.
18. (Самбуудорж, 2001) -Самбуудорж О., Монгол хэлний этгээд үг хэллэг үүсэх арга. —“МУИС, Монголын Судлалын Сургууль, Эрдэм шинжилгэний бичиг”, Уб., 2001, XVIII боть, х. 29-35.
19. (Самбуудорж, 2001) -Самбуудорж О., Л. Эрдэнэсүвд., Монгол хэлний этгээд үг хэллэг. Этгээд үг хэллэгийн товч толь. Уб., 2002, 158 тал.

20. (Сүхбаатар, 1998) -Сүхбаатар Ц., Монгол хэлний найруулга зүй. Уб., 1998, х. 166-167.
21. (Сүхээ, 1996) -Сүхээ С., Гэмт хэрэгтнүүдийн этгээд үг хэллэг ярианы хэлний өвөрмөц хэсэг болох нь -“Монгол ярианы хэл” /Хамтын бүтээл/ МУИС, Уб., 1996, х. 99-100.
22. (Төмөрцэрэн, 1974) -Төмөрцэрэн Ж., Этгээд аялгууны үг. -“Үгийн сангийн судлал” Уб., 1974, х. III-III.
23. (Эрдэнэсүвд, 2000) -Эрдэнэсүвд Л., Монгол хэлний этгээд үг хэллэгийн судлал, түүнийг судлах нь. -“МУИС, Монголын Судлалын Сургууль, Эрдэм шинжилгэний бичиг”, Уб., 2000, XVI боть, XVI дэвтэр, х. 120-123.
24. (Эрдэнэсүвд, 2001) -Эрдэнэсүвд Л., Сленговые слова и выражения в современном монгольском языке. -“Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae”, Volume 54 (1), pp. 167-169 (2001).
25. (Якубинский, 1930) -Якубинский Л.П., Классовый состав современного русского языка: Язык крестьянства. -“Литературная учеба”, 1930. №4, стр. 80-95.
26. (Якубинский, 1931a) -Якубинский Л.П., Классовый состав современного русского языка: Язык пролетариата. -“Литературная учеба”, 1931. №7, стр. 22-43.
27. (Якубинский, 1931б) -Якубинский Л.П., Русский язык в эпоху диктатуры пролетариата. -“Литературная учеба”, 1931. №9, стр. 66-76.
28. (Якубинский, 1932) -Якубинский Л.П., О классовых языках. -“Учебник русского языка”, Л., 1932. стр. 40-97.

(2003. 6. 11 受理)